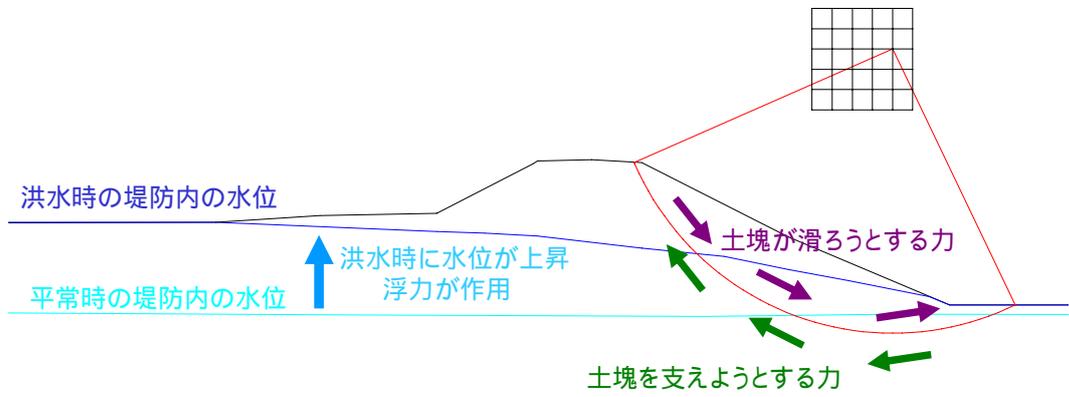


武庫川における堤防強化対策について

第47回流域委員会
資料3-7

1. 武庫川堤防技術検討委員会での安全性の照査

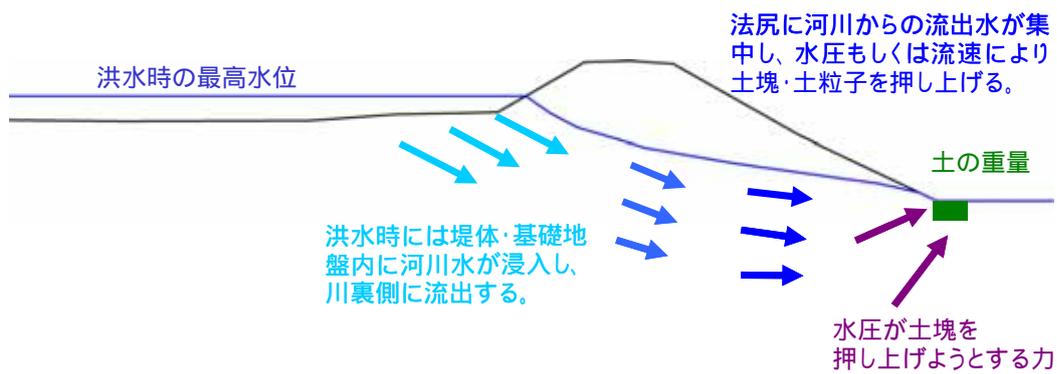
(1) 浸透によるすべりに対する安全性の照査



$$F_s = \text{土塊を支えようとする力} / \text{土塊が滑ろうとする力}$$

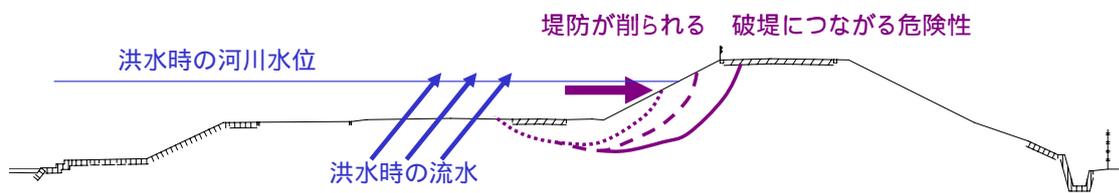
(F_s = すべり破壊に対する安全率：最低安全率 1.2)

(2) パイピングに対する安全性評価



堤防川裏法尻の水位差： 単位延長当たり 0.5 m 以下の水位差であれば OK

(3) 浸食に対する安全性評価



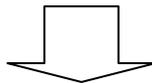
洪水時の流速が 2 m / s 未満であれば OK

2. 重要水防箇所

現状の重要水防箇所指定状況（堤防の安全性照査実施区間）

- 阪神電鉄～ＪＲ東海道本線　　：要注意箇所
- ＪＲ東海道本線～甲武橋　　：水防上最も重要な箇所
- 甲武橋から仁川合流点　　：次に重要な箇所

重要水防箇所は堤防の安全性照査を実施する以前より指定



堤防の安全性照査の結果を踏まえ、重要水防箇所の見直しを検討

3. 今後の堤防強化対策

- ・武庫川の堤防及び基礎地盤は砂質土からなり天井川であることから、洪水時は堤体からの浸透によるすべり破壊の可能性が最も高いと考えられる。
- ・このため、浸透によるすべり対策を優先することとし、安全率が1.2を下回る区間の強化対策を実施していく。（平成17年度より事業着手：別紙図面参照）
- ・安全率が1.2を上回る区間で対策が必要な箇所については、県内他河川のバランスを考慮して、順次実施していく。

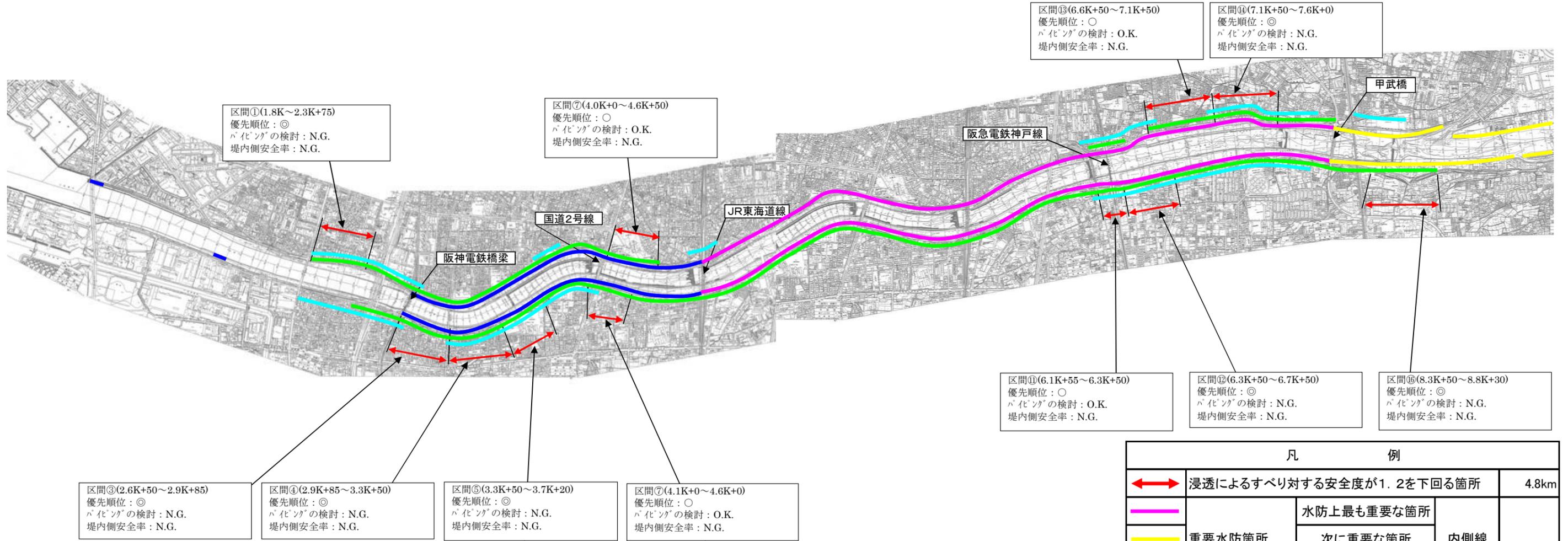
浸透によるすべりに対する安全率が1.2を下回る区間を優先的に実施

県内他河川での
安全性照査の
実施及び取りまとめ

県内の堤防強化計画の策定

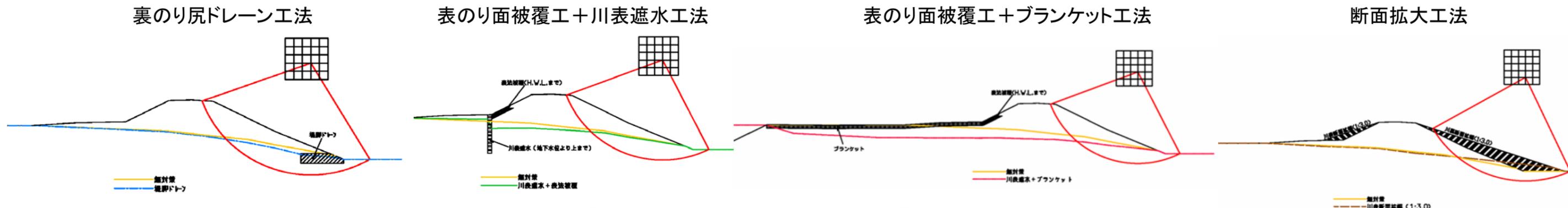
緊急性の高い河川より堤防強化を順次実施

堤防強化実施予定箇所図



【図-1 平面図】

凡 例			
←→	浸透によるすべりに対する安全度が1.2を下回る箇所		4.8km
—	重要水防箇所	水防上最も重要な箇所	内側線
—		次に重要な箇所	
—		要注意箇所	
—	浸透に対する要対策区間	中央線	11.1km
—	浸食に対する要検討区間(流速2m/s以上)	外側線	7.8km



【図-2 代表的な対策工法】